

調査の観点	発行名 開隆堂出版	日本文教出版
<p>1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)児童の発達段階に対する配慮されているか。 (3)各学年にわたる内容の取扱いに対して配慮しているか。 (4)児童の意欲、関心を引き出す配慮があるか。 (5)児童の習熟の程度に応じた発展的な学習内容の取扱いが適切であるか。</p>	<p>(1)低・中学年は、身の回りの様々な材料を体験させて、身体全体の感覚をはたらかせることができるように工夫されている。高学年は、材料の特徴を捉えて取り組むことができるように、技術的なヒントが示されている。 (2)3・4年生ののこぎりやげんのうの扱いについて、上巻でののこぎりを扱う課題を設定し、下巻でげんのうを扱っているのは、段階的に木材を扱うことができる。また、2学年にわたって同じ材料や道具を扱うことで前学年までの復習も行うことができ、授業を進めていく上で、とても便利である。 (3)ほかし、にじみ、シャボンなどの技法を取り扱った題材が多く、児童にとって絵画表現の幅を広げることができる。 ・巻末の「道具箱」では、過去又は下学年で学習したことを復習できるように配慮されている。 (4)多様な提示により児童の製作の幅を広げる工夫がある。 ・現代の造形作家をとりあげ、児童の意欲関心を高め、創作につながる活動を紹介している。 ・作家の作品紹介が発展的な広がりにつながる。 (5)巻頭に掲載されている日本の若手作家による作品とメッセージが、興味を引く。 ・高学年の工作は、アイデアからは設計図を起こして順序立てて組み立てるなど、中学校の技術科につながる内容になっている。 ・「かんがえをひろげて」のコーナーを設け、習熟度に応じて発展的な学習ができるようにしている。</p>	<p>(1)低・中学年は、身の回りの様々な材料を体験させて、身体全体の感覚をはたらかせることができるように工夫されている。高学年は、材料の特徴を捉えて取り組むことができるように、技術的なヒントが示されている。 (2)特に工作の領域において、発達段階に応じて無理なく取り組める内容で構成されている。 (3)共同製作の場面が各学年ごとに提示されている。 ・材料や道具の取り扱いの説明のページで、「気を付けよう」と安全に関する留意点が分かりやすく示してある。 (4)指導項目を絞った題材が提示されており、題材の良さを深めることができる。 (5)親しみやすい作品及び美術史的意義のある作品を掲載しており、鑑賞の教材として配慮されている。 ・高学年において、中学生の作品が載せてあり、発展的な広がりにつながる。 ・1・2年空箱題材や「くしゃくしゃゆっ」など、作り方が発達段階に対して、無理がなく、心を育てることを意識したテーマを用いた題材が設定されており、豊かな情操の育成につながる。 ・中学年造形遊びの内容は、材料や場所などを基にして活動し、高学年は材料や場所などの特徴を基にして活動するなど、焦点化され発展していく。3・4年上下共に材料や場所の特徴を意識した扱いになっている。 ・3・4年下(すみのすみか)では、家を製作する際、片側を本来ある壁などを利用して製作しているので、技能的にも時間的にも中学年の児童にあった事例提示がなされている。</p>
<p>2 構成及び分量 (1)内容は全体として系統的・発展的に構成されているか。 (2)各領域の分量について児童の発達段階を十分に配慮しているか。 (3)教科の特質に即した主要教材において基礎的事項をおさえ、補充教材並びに発展教材等の取扱いに対して配慮しているか。</p>	<p>(1)発達段階を考慮しながら、道具の扱いや技術が習得しやすいように、系統的に構成されている。また、教科書の末ページには、材料と道具の取扱いの工夫が示されている。 (2)同じ領域の中から、児童の実態や地域に合わせて選べるように、多めに扱われている。 (3)木版画の扱いにおいて、刷る紙の準備や版木の色のつけ方など、刷りの効果に着目させるように作られている。学年が進むにつれて多色刷りの種類を各学年で区切ることなく、次のステップを少し体験しながら発展過程をたどっている。 ・「もういちどたしかめよう」コーナーを設け、材料や用具の基本を各題材ページの中で繰り返しおさえている。また、「かんがえをひろげて」のコーナーを設け、補充的・発展的な教材を提示している。 ・各学年の巻末に「みんなのギャラリー」、「パレットコーナー」、「道具箱」のページがあり、「イメージ」、「形や色」といった図工科の内容をおさえている。</p>	<p>(1)発達段階を考慮しながら、道具の扱いや技術が習得しやすいように、系統的に構成されている。また、教科書の末ページには、材料と道具の取扱いの工夫が示されている。 (2)同じ領域の中から、児童の実態や地域に合わせて選べるように、どの学年も多めに扱われている。 (3)版画題材において、3・4年下で、一版一色刷りをシンプルに取扱うことで、版画の基礎的事項に絞って学習し、高学年で段階的に発展させた題材を設定している。 ・4年で始まる木版画の扱いにおいて、学年が進むにつれて単色刷りから多色刷りへ進んでいく。多色刷りの種類を各学年で区切ることなく、次のステップを少し体験しながら発展過程をたどっている。また、刷った形を矩形から多角形に発展させることも示唆している。6年では中学生の作品も紹介している。 ・「材料と用具」のページなど、巻末の資料ページが充実している。 ・3・4年下P22、P23(ゆめのまちへようこそ)一つの題材が見開きページになっていて、どちらも選択して製作できるようになっている。また、実際の街にある「ヘレン、ケラーのために」の鑑賞写真などは、創造性を豊かにできる。 ・巻末に掲載されている技能のまとめが分かりやすく、児童が学習を振り返るときに役立つ。 ・「使ってみよう材料と道具」は、掘り進み版画やモダンテクニックなど、使い方や扱いの基礎・基本を押さえながら、発展的な表現について、詳しく掲載してある。</p>
<p>3 表記及び表現 (1)児童にとって読みやすい表現であるか。 (2)印刷、写真、挿絵、図形等が見やすく、分かりやすいか。</p>	<p>(1)題材名、めあての活字が大きく読みやすい。ふりかえりのポイントも4観点で示されている。 ・各題材ごとに4観点評価をもとにした振り返りができるように工夫されている。題材ごとに大切な振り返り項目はゴシック文字で表記されており、分かりやすい。 ・作品例が、必ず3作品以上掲載されている。 (2)多様な提示が盛り込まれているので、児童の興味・関心を高めることができる。 ・イメージを広げる写真、身近な作品例、イラストの解説、ふきだしなど分かりやすい。NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構(CUDO)による認証を受けている。 ・参考作品の写真が、大きさに変化がある。大きな写真が多く、技法や作り方の解説・イラストがある。 ・表紙が明るく、色彩豊かで児童の意欲を向上させる効果がある。 ・1ページの紙面の面積が広く、図版を見やすくする配慮がある。</p>	<p>(1)材料と用具のことを、「使ってみよう材料と道具」として、6ページにわたって説明してある。 ・指導事項を絞った構成で、内容的にも無理のない分量である。 ・教師が使う際にめあてが4観点で表示してある。安全指導や後片付けにも配慮している。 ・「形や色のチーロさん」のヒントが、活動を進めていく上で、児童の選ぶ材料や方法などをもう一度確かめたり、変更したりする試行錯誤を促している。また、参考作品にコメントしている本人の感想が、児童に試してみたいという興味・関心につながる。さらに、学習のめあてがイラストで明確に示されており、特に大切にするところには、アンダーラインもあることで、途中で振り返り確かめることに役立つ。 (2)高学年では「風神雷神図」、「ゲルニカ」、「雲竜図」、「鳥獣戯画図」、など重要な作品を紹介しているだけでなく、大きな図版で掲載しているため、児童が細部までよく鑑賞することができ、授業で活用しやすい。</p>
<p>4 使用上の便宜 (1)全体の構成が見通せるように配慮しているか。 (2)課題発見、課題解決に向けた学習が効果的に進められるように配慮しているか。 (3)印刷・装丁に対して配慮しているか。 (4)地域性に対して配慮しているか。</p>	<p>(1)目次では、その題材のめあてが分かるように記号で分類されており、領域・用具・材料も示されている。 ・各題材に「ふりかえって、はなしあおう」の項目を設置し、言語活動の観点が見られている。 ・目次に内容を示すアイコンがあり、教科書の構成内容が分かりやすい。 (2)ふりかえりの中の4観点のうち重視している項目が太ゴシック体になっている。事後学習にも使える。 ・ふりかえりが観点別に提示してあり、課題解決に配慮している。 ・「かんがえをひろげて」「あなたならどうしますか」のコーナーを設け、補充的・発展的な教材を提示している。 (3)ユニバーサルデザイン(色覚)に配慮しており、用紙もマットで反射しにくい。 (4)「きょうしつをとびだして」で地域の美術館などの写真があり、地域性に配慮している。 ・活動する場所の様子が、公園や校庭・砂場・校舎の裏庭・校舎の廊下や教室、オープンスペース、階段など、いつも身近にある場所が載っているため、児童にとって想像しやすい。また海のある場所を扱っていない。</p>	<p>(1)題材のめあてが〇〇しようと4観点について触れてある。めあてがあるので、導入に使える。 ・用具の取り扱い方についての図解や写真が多く表示してある。 ・目次に内容を示す写真やアイコンがあり、教科書の構成内容を理解できる。 (2)各ページでキャラクターが活動のヒントや発展のさせ方を紹介しており、個に応じた学習が展開しやすい。 ・ページの隅に、観点に対応した形で、「事前の確認」があり、児童が学ぶべき点を再認識することができる。また、特に留意すべき点を強調しており、児童が理解しやすいように配慮されている。 (3)見開きによる写真掲載が多く、鑑賞の授業で活用しやすい。芸術作品の色の再現性が高い。 ・巻末の資料ページに、切り取り線が入っており、次年度以降も活用できる。 (4)「びじゅつかんとつながる」の中に、地域の美術館の写真があったり、「図画工作の広がり」の中に郷土玩具の写真があったりして地域性に配慮している。 ・活動する場所の様子が、公園や校庭・砂場・校舎の裏庭・校舎の廊下や教室・オープンスペース、階段など、いつも身近にある場所が掲載されており、児童が想像しやすい。また、海のある場所を扱っていない。</p>
<p>5 総合所見 (1)教科の指導及び児童の学習活動の視点から総合的にみてどうか。 (2)現在八王子市で使用している教科用図書と比べてどうか。</p>	<p>(1)低学年に重点をおいた「造形教育」の視点で構成されている。 ・学習「支援」の要素がみられる。 (2)製作過程や思考の広げ方、用具の扱い方が、具体的に示されている。 ・現在使用しているので、題材等に慣れていて違和感は少ない。教科用図書の大きさがひとまわり大きくなっていて、紙面にゆとりがある。</p>	<p>(1)各題材が具体的に示されている。シンプルで分かりやすい。ポイントを絞って示している。1つの題材の提案でその提案に沿った作品例が示してある。 ・高学年に重点をおいた「図工・美術教育」の視点で構成されている。 ・学習「指導」の要素がみられる。 ・用具や鑑賞など、全体に資料として活用できるページが多い。 (2)現行の教科用図書と発行者が違うので、授業者にとって、題材に新鮮味がある。また、題材ごとの掲載写真が多く、見て分かりやすい。</p>